

# 緩和・支持医療学

## 1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 森 直 治  
【科目担当者】 教授（特任） 前 田 圭 介

## 2 教育目標

### (1) ねらい

がん等の難治性疾患に対する緩和医療，支持医療に関して，腫瘍学や代謝栄養学に基づく，症状や代謝状態の科学的に評価法を習得する。体蛋白量，筋肉量の低下は健康状態や医療のアウトカムの低下に直結する重要な問題であり，これを理解し，適切なサポートを身につける。また，エビデンスの収集能力を向上させ，研究計画から英語論文発表までのプロセスを修得し，医学研究を実行できる能力を習得する。

### (2) 学修の到達目標

- ① 難治性消耗性疾患に対する緩和医療，支持医療の意義を理解する
- ② 腫瘍がもたらす代謝変化を理解し，腫瘍学，代謝栄養学に立脚した全人的医療を行える
- ③ 体蛋白量維持の重要性，低栄養のもたらすアウトカムを理解し，適切な栄養サポートが行える
- ④ エビデンスとリーダーシップに基づくチーム医療を理解する
- ⑤ 緩和医療，代謝栄養領域の医学研究を計画から英語論文発表まで行える

## 3 授業内容

|        |   |
|--------|---|
| 【講義】   | 全人的医療を行う上で不可欠なチーム医療の重要性とゴール設定について修得する。疾患に伴う代謝変化，サルコペニアの影響などの講義を通じ，疾患治療の基礎となる代謝応答や栄養サポートについて学ぶ。                    |
| 【演習】   | がんなどの消耗性疾患患者に対する栄養評価，栄養量の設定や輸液や栄養剤の選択，運動療法の処方等の実臨床に即した栄養管理の演習と，サポートの目標設定やコミュニケーションといった全人的医療を行うための基礎となる事項の演習を実施する。 |
| 【実験研究】 | 疾患治療をうける患者の筋肉量，体蛋白量の減少と生活の質，臨床症状，予後に関する臨床的研究を行い，その成果を発表する。  |

## 4 成績評価の方法・基準

実習態度，文献検索能力，レポート作成能力，ディスカッション内容から修得状況を評価する

## 5 教科書・参考図書

- ・ OXFORD TEXTBOOK of Palliative Medicine(2021)
- ・ 専門家をめざす人のための緩和医療学 日本緩和医療学会編(2019)
- ・ 悪液質とサルコペニア リハビリテーション栄養アプローチ 医歯薬出版(2014)
- ・ 臨床研究と論文作成のコツ 読む・研究する・書く 東京医学社(2011)
- ・ 代謝栄養学に関しては European Society for Clinical Nutrition and Metabolismの無料On-line 学習ツールであるLife Long Learning (LLL)のTopic 26 Cancer and nutritionをベースとする(Textも無料でダウンロード可)

## 6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前にテキストの事例などに目を通しておく。(1週間に6時間程度の予習・復習が望ましい。)

## 7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

緩和医療や栄養サポートなどの支持医療に関する論文作成を通して, 高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

## 8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

講義, 実習中に疑問点の解説, レポート内容の評価等フィードバックを行う。

## 9 履修上の留意点

時間を守り, 積極的な態度で参加すること

## 10 オフィスアワー

| 職名     | 氏名      | 曜日  | 時間帯         | 場所         | 連絡先      |
|--------|---------|-----|-------------|------------|----------|
| 教授     | 森 直 治   | 月   | 17:30~19:00 | 教授室(C棟7階)  | 内線 22930 |
| 教授(特任) | 前 田 圭 介 | 月・木 | 10:00~13:00 | 栄養治療支援センター | 内線 80319 |